

デンマーク研修・最終日のまとめ会

報告者：櫻谷 真理子



夏代：

皆さんが来られる前は、雨が続いて心配でしたが、研修期間中はお天気に恵まれました。天国に一番近い国と言われているので、直射日光が強いです。それから、デンマークの食事で2キロ位太った人もおられると思いますが、デンマークに来て日焼けして、太ったというのは最高です。どこの国に行つて来たのと聞かれるかもしれませんが……。今回は世代を超え、専門を超えて16人が行動を共にしましたが、怪我や病気も無く、一週間の研修を終えられることをうれしく思います。

皆さんは強い思いがあつて参加されたと思いますが、一週間の研修で何かをひっくりかえそうとするのは無理です。でも、日本から1000キロ離れた国に身を置くことで、自分の国を距離を置いて見る機会になつたのではないのでしょうか？また、いろいろな意味で考える時間を与えてくれたと思います。「どうしてなんだろ

う」という「はてなマーク」が心のいくつも浮かんだのではないのでしょうか？今まで、当たり前だと思っていたことに「はてなマーク」があつた、それがとても大切なのです。デンマークに肌でふれて、何かヒントになるものが得られた人は、これから生きていく過程できっと役立つことになると思います。

今回は二人の子どもさんも参加してくれました。彼女たちの未来、これからの成長を思うと、私自身も夢が広がっていく思いです。皆さんはいろいろな地域から参加されていますが、同じ思いを持った方たちなので、これからも長くつながって欲しいと思います。私も皆さんとのつながりを大切にしたいと思います。中能さんはそういう仕掛けをするのが上手な人です。

中能：

今回もすばらしい仲間に出会えました。皆さんとは何年も前から友達だったような、知り合いだったような気がしています。また、この研修へのモチベーションの高さを感じました。私は、皆さんが職域、年齢を超えて友達になって欲しいということを願っていましたが、とても和気あいあいとした雰囲気でも過ごせました。一週間デンマークの風に吹かれて、心も穏やかになり、心を開いても心配無いと思われたようですね。おおらかな風に吹かれていると、自分の気持ちをすなおに

出せるようになっていくのでしょうか。

夏代:デンマークの人々も「元気なグループね」と言っていました。デンマークのお年寄りに負けない位元気だとも言われました。皆さんが自分らしくいられたからではないでしょうか。

中能:

では、皆さんから一言ずつ感想をお願いします。

清水:

世界一豊かで幸せな国デンマークと世界で貧しい国のひとつであるブータンでは、人々の笑顔と動物のやさしい目が共通していると感じました。どこへ行っても「グッデイ！」と笑顔で挨拶をしてくれるのが印象深いです。二つの国では、他人を信頼する、自分を信頼するということが共通していると思います。それに比べ、日本では高校生同士でも他人への警戒心が強く、クラスになじむのに時間がかかります。では、人を信頼する心はどのようにして育まれるのだろうか、と考えました。とりわけ、感性が大切ではないかと思いますが・・・。

夏代:

自分が大切にされたから、人も大切にするという相互関係だと思います。子どもが愛され、大切にされる社会だからこそ、他者を思いやる気持ちや信頼感が育まれるのだと思います。

水垣:

私も、子どもが大事にされる社会だということを強く感じました。子どもの意思、自己決定が尊重されており、大人たちが温かく子どもを見守っている姿にも感動しました。

中能さん：水垣さんは、何でも心で受け止め、感激しておられましたね。

長倉:

大学4年生で、卒論のことも気になりますが、参加できて本当に良かったと思います。卒業後は高齢者福祉施設で働く予定なので、働く前に福祉先進国の実情を知りたくて、バイトでお金を貯めて参加しました。デンマークでは、高齢者分野でも、保育園の分野でも職員がゆとりを持ってケアをしているなど感じました。日本では職員がいつも忙しそうにしていますが、たとえ、忙しくてもそれを見せないことが大切だということに気づかされました。

中能:

彼は参加する意思を示しつつも手続きがなされないのが、最後まで気をもみました。参加してくれて本当によかったと思います。大学生のうちに参加したことは、これから大きな意味を持つと思います。

小泉:

私は、子どもたちが生き生きしているなと思いました。小さい時から愛されて育っているので、他者を愛することが身についていると感じました。また、さまざまな施設を訪れ、感じるものがたくさん

んありました。障害を持った人たちへの支援や生活ケアを考えるうえでも、勉強になりました。

内山:

見て、感じて、交流して、とてもすばらしい体験をしました。どこへ行っても歓迎されたのは、夏代さんと中能さんのおかげだと思います。お二人の熱意が伝わっているのだと思います。多くの施設を訪れ、デンマークのすばらしい高齢者福祉を目の当たりにして、自分の職場では何ができるのか考えさせられました。帰ったら、できることから、小さなことから変化を起こしていきたいと思います。

松本:

自分の目で見ても、自分の身体で感じる研修でした。たくさんの疑問がわき、質問をしましたが、日本的な発想による質問だったということに気づかされました。管理的なことも気になったのかもしれませんが。一週間過ごしてみて、デンマークの福祉実践を進める基本的な考え方が少しずつわかり始めたところです。日本に戻ると、日常に流されてしまうかもしれませんが、デンマークで学んだ視点を基に仕事を振り返ってみたいと思います。

小野:

福島から娘たちと参加しました。研修期間中、さまざまな体験をしましたが、日本に帰った後、何ができるのか、何から始めるべきなのか考えさせられました。まず、これから日本で行われていること

をウォッチしたいと思います。何がなされているのか、しっかりと見て、判断することが大切だと思います。娘たちもいろんなことを感じたと思います。皆さまにいろいろと気遣っていただき、ありがとうございました。

中能:

日本は、手をつなぐことが苦手になっていると思います。意見が違っていいからお互いを認め合い、手をつなぐことが大切だと思います。

堺:

この研修には、春のツアーに参加するつもりだったのですが、参加するなら福島の人を誘おうと思い、半年待ちました。それが今回実現したのです。小野さんが娘さんと一緒に参加してくれました。デンマークで学んだことを基盤に、これから福島をどう再生していくのか考えたいと思っています。

吉田:

2回目の参加です。前回は最後のミーティングで泣いてしまう人もいました。自分の抱えている問題についていろいろな角度から考える機会になったからだと思います。私も、さまざまな体験を通して、自分自身の生き方などを振り返る機会になりました。難しい問題を抱えた人と接する仕事ですが、もっと柔軟に人と関わっていこうと思います。

小野桃子:

印象に残ったことはたくさんあります

が、やはり教育がいいと思いました。規則に縛られず自由である、一人ひとりが大切にされている、という印象を受けました。だから、自分のやりたいことができる、自分を生かせると思いました。デンマークは住みやすい国だと思います。

小野桜子:

子どもたちがのびのびと楽しそうでした。教育や幼稚園の現場で、点数がつけられないことに驚かされました。日本との違いを感じました。

浦野:

すごく楽しかった。気持ちが穏やかで、ゆとりのある状態で過ごせました。自分の専門以外も学んだが、これまで自分が見えなかったこと、気づかなかったことを学ぶことができました。さまざまな体験や人との出会いを通して、自分が小さい世界に住んでいるなど感じました。印象に残っているのは、保育園の先生が、日本の数字を必死で覚えて、子どもに教えようとしている姿です。正確に伝えようと真剣に取り組んでおられました。

酒井:

たくさんのごこと学び実りある研修でした。22年間の中能さんと夏代さんの積み重ねを感じました。年齢差を超えて、参加者のみんなと色々なお話しできて、とっても楽しかったです。そして多くの刺激を受けました。これから自分の目指す方向が、少し見えてきたように思います。

八切:



「自立」・「自己決定」という言葉に何度もふれました。エコロジー、民主主義という言葉も何度も聞きました。その意味をこれからも考え、自分の生き方や仕事に反映させていきたいと思っています。

櫻谷:

皆さんと一緒に毎日楽しく過ごすことができました。明日からは一人になるので、さみしいです。昨年の報告書や本を読み、事前に勉強して参加したのですが、中身の濃い、充実した内容の研修だったので、ついていくのに精一杯でした。夏代さんと中能さんの一言、一言も心に染みしました。また、保育園で、先生と子どものやりとりを観察しながら、子どもへの対応のあり方を考えさせられました。子どもを叱って育てるのではなく、子どもとの対話を通じて、子どもが自分をコントロールする力を育てているなど感じました。

一つ質問ですが、産休中や育休中に赤ちゃんへの虐待が生じる恐れがあると思いますが、それには、どう対応しておられるのでしょうか？

夏代:

デンマークでも虐待はあります。しかし、子どもが生まれると、自治体の訪問保健師が1年に5回訪問しているので、虐待の予防になっていると思います。保健師がコンタクトできないケースは、小児科医が発見することもあります。家事援助や育児援助が必要なケースは自治体がフォローして、必要なサービスを提供しています。

小野:

日本では、先生が子どもを言葉で傷つけたり、えこひいきをすることがあります。先生による心理的虐待だと思いますが、それを言っていく場所がありません。先生と子どもの関係がうまくいかなかった場合、デンマークではどうしますか？

夏代:

デンマークでは、通常7年生まで同じ先生が担当します。ですから、相性が合わない場合は子どもが他の所に変わることができます。1学級は20人位なので、子ども同士の関係はもちろん、先生と子どものつながりも深くなります。

小野:

日本では、いじめ問題も深刻になっています。学校でいじめのアンケートが配られることがあるが、記名式なので書くことにためらいがあります。デンマークでは、いじめ問題はどうなっていますか？

夏代:

いじめはあります。でも、自殺まで追い込まれることは無いです。幼い時からいじめについて考えさせ、いじめを減らす努力が続けられています。学校の責任だけでなく、子どもと親がどう向き合っているか、といったことも大切です。今の日本では親と子が一緒にご飯を食べるといった団らんができるのでしょうか？人の生活はどうあるべきか、政治家に考えて欲しいと思います。働き方を変えて、夫婦で子どもを育てるのが正常だと思います。

それから、子ども時代は子どもらしく、遊び中心の生活を送ることが大切だと思います。学校教育のあり方も大切です。デンマークの教育は答えを教えなくて、学び方を学ばせます。

中能:

意見交換をまだ続けたいのですが、買い物に出かけたい人もいるようですので、ここで終わりたいと思います。夏代さんは残られるので、自由に話しをしてください。